

公表 保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名 倉吉東こどもの発達ディサービスセンター

公表日 2025年 2月 10日

利用児童数 72 回収数 62

	チェック項目	回答割合				ご意見	ご意見を踏まえた対応
		はい	どちらとも いえない	いいえ	わからな い		
環境・ 体制 整備	1 こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	94%	5%	0%	1%		
	2 職員の配置数は適切であると思いますか。	98%	0%	0%	2%	・あと1~2名多いと先生も余裕がもてて更に質の良いパフォーマンスができると思います。	
	3 生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	98%	2%	0%	0%	・あいさつの位置、課題カゴなど分かりやすいです。	
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	100%	0%	0%	0%		
適切 な 支 援 の 提 供	5 こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	100%	0%	0%	0%		
	6 事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	89%	0%	0%	11%		
	7 こどものことを十分に理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	96%	0%	0%	4%	・受診時の診察に沿った課題や家庭での支援に沿った働きかけをしていただいています。	
	8 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	96%	0%	0%	4%		
	9 児童発達支援計画に沿った支援が行われていると思いますか。	98%	0%	0%	2%		
	10 事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	94%	0%	0%	6%		
	11 保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、その他地域で他のこどもと活動する機会がありますか。	52%	11%	11%	26%	今のところないかな...と思います。	お楽しみ会の際、併設こども園の園児を招待し、一緒におたのしみステージ鑑賞をしましたが、交流はできていませんでした。今後行事を通して交流できる機会を検討していきたいと思います。
保 護 者 へ の 説 明 等	12 事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	98%	0%	0%	2%		
	13 「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	98%	0%	0%	2%	毎回丁寧に説明して頂いています。	
	14 事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	62%	7%	0%	26%		ペアレントトレーニングは行っていませんが、日頃から個別課題後には保護者の方と情報共有ができるよう努めています。また今後は研修会や情報提供の機会も検討したいと思います。

保護者への説明等	15	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達の状況について共通理解ができていると思いますか。	97%	3%	0%	0%	・いつも困ったりリアルタイムで相談に対応していただきありがたく感じています。 ・その都度、問題点等について話を聞いて下さり、現状の問題（困り感）に沿ったことを課題に取り入れて下さり、解決策を多方面から教えて頂き、その中で自分に合った物（コト）を見つけられているのでとても助かっています。	
	16	定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	98%	2%	0%	0%	・こちらの助言があり、私自身も助けられ、子育てができています。ありがとうございます。	
	17	事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	100%	0%	0%	0%		
	18	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	65%	15%	2%	18%	・去年に比べてイベントが増えたと思います。 ・きょうだいの支援は分からない。 ・家族で安心して参加させて頂いています。ありがとうございます。	今年度は保護者交流会を企画し、保護者同士の情報共有の場となりました。また、行事にはきょうだい参加も可能です。今後も行事は連絡アプリ、掲示にてお知らせしますので、よければご参加下さい。
	19	こどもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、こどもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	92%	2%	0%	6%		
	20	こどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	100%	0%	0%	0%		
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果をこどもや保護者に対して発信されていますか。	95%	0%	0%	5%		
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	100%	0%	0%	0%		
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	71%	5%	2%	22%	・普段は妻が送り迎えをするためよくわからない。 ・されているとは思いますが、存じ上げていないのですいません。	各種対応マニュアルを策定しています。緊急時対応マニュアルは待ち合いに設置していますが、今後はその他のマニュアルについても確認して頂けるように対応していきます。
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	47%	7%	0%	46%		毎月、併設のこども園と同時期に訓練を行っています。
	25	事業所より、こどもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	84%	0%	0%	16%		安全の確保には配慮しながら支援を行っています。内容が周知できるよう、今後対応していきたいです。
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	74%	3%	0%	23%	・事故などが起こっていない。 ・経験がないです。	事故、怪我等が発生した場合は速やかに保護者と共有し、状況や当時の対応について説明を行っています。
満足度	27	こどもは安心感をもって通所していますか。	98%	2%	0%	0%	・いつもありがとうございます。本人の好きな事に共感して下さった上で、更に広げる工夫をしていただけるので、とても活動が楽しいようです。	
	28	こどもは通所を楽しみにしていますか。	94%	4%	1%	1%	・いつも楽しみにしています。	
	29	事業所の支援に満足していますか。	100%	0%	0%	0%		

公表 事業所における自己評価結果

事業所名	倉吉東こどもの発達デイサービスセンター				公表日	令和7年3月21日
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	100%	0%	課題内容や状況に応じて環境設定を行っている。	
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	100%	0%	厚生労働省の定める指定基準を遵守し、職員を配置している。	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	100%	0%	利用児に合わせて環境設定を行っている。案内や注意事項など、個々又は全体に分かりやすいように掲示をしている。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	100%	0%	毎日清掃・消毒をし、清潔を保っている。	
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	100%	0%	個別の療育室が完備されている。小集団活動時にも必要に応じて個別の部屋を利用している。	
業務改善	6	業務改善を進めるための PDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	100%	0%	毎日職員間でミーティングを行い、その都度PDCAサイクルに基づき振り返りを行っている。また、定期的に事例検討会を開催し、利用児の理解を深めながら目標の見直しも行っている。	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	100%	0%	毎年保護者向け評価表にて保護者の意見をお聞きし、業務改善につなげている。	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	100%	0%	日々のミーティング、定期的な検討会の中で意見を出し合い、必要なことは業務改善に繋げている。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	60%	20%	第三者による外部評価は現在行っていない。	今後は必要に応じて検討していく。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	100%	0%	全職員が研修を受けられるようにしている。	
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	100%	0%	支援プログラムを作成し、公表している。	
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	100%	0%	保護者へのアセスメント、集団場面の観察を行った上で、こどもと保護者のニーズや課題分析を行い、児童発達支援計画を作成している。	
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	100%	0%	児童発達支援管理責任者と担当職員で情報を共有し、子どもの理解を深めながら検討を行っている。計画作成後も職員間で相談ができています。	
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	100%	0%	児童発達支援計画の目標に沿って、具体的な活動内容も児童発達支援管理責任者と担当職員で検討し、計画に沿った支援を行うことができている。また、支援目標がすぐに確認できるような仕組み作りも行っている。	
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	100%	0%	利用開始時にはKIDS乳幼児発達スケールを用いて客観的に評価している。また必要に応じて発達検査を行っている。	
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	100%	0%	児童発達支援ガイドラインのねらい、および支援内容を踏まえ、具体的な支援内容を児童発達支援管理責任者と担当職員とで検討できている。	
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	100%	0%	プログラムの立案は個別課題、小集団活動共にチームで行っている。	
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	100%	0%	利用児の姿に合わせて課題内容を適宜変更している。	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	80%	20%	個別療育が主であるが時間帯の利用児との活動を設定したり長期休暇の学習余暇支援では小集団での活動も積極的にしている。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	100%	0%	毎日職員間でミーティングを行っている。視覚的に役割分担を示すことで全体の動きも把握できるようにしている。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	100%	0%	気付いた点は職員間で共有し、次の支援に活かしている。	

関係機関や保護者との連携	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	100%	0%	支援の記録をとり、次回の課題検討に活かしている。	
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	100%	0%	定期的にモニタリングを行っている。利用児の変化や保護者のニーズなどに合わせ、必要に応じて見直しを行っている。	
	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	100%	0%	こどもの状況を理解した者がサービス担当者会議、支援会議などに参加している。	
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	100%	0%	受診同行、支援会議への参加、保育所等訪問等、必要に応じて関係機関との情報共有・連携を行っている。	
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	100%	0%	支援会議だけでなく、必要に応じて連絡ノートやメール等を用いて、日々情報共有をしている。	
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	100%	0%	保護者の希望があれば、移行支援会議に参加し、支援の手立て等を共有している。	
	28	(28～30は、センターのみ回答)	100%	0%	必要に応じて他事業所と支援について検討したり、助言したりし、連携を図っている。	
		地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。	100%	0%	毎週スーパーバイザーの先生を交えて検討会を行ったり、全職員が外部研修を受けるようにしたりしている。	
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。	100%	0%	積極的に参加している。	
	31	(31は、事業所のみ回答)				
		地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイザーや助言等を受ける機会を設けているか。				
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	20%	80%	デイの行事にこども園の園児を招き一緒に劇鑑賞をした。	今後は交流する機会も検討していく。
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	100%	0%	個別支援後には毎回保護者に課題の内容や様子についてお伝えするようにしている。直接お伝え出来なかった場合は連絡ノートや連絡アプリを介して共通理解を図っている。	
34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	80%	20%	家族支援プログラムは行っていないが、家庭からのこどもへの関わりに繋がるような情報提供をお便りを通じて配信している。		

保護者への説明等	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	100%	0%	丁寧に説明を行っている。	
	36	児童発達支援計画を作成する際には、子どもや保護者の意思の尊重、子どもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、子どもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	100%	0%	保護者の願いを確認する機会を毎年設けている。計画は保護者の願いも踏まえて作成している。	
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	100%	0%	保護者と計画を共有しながら、直接話し合う場を設け、同意を得るようにしている。	
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	100%	0%	保護者からの相談がある場合には随時、対応している。また支援場面の観察時にも保護者の相談に応じるようにしている。	
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	100%	0%	行事にはきょうだいの参加も可とし、きょうだいの交流の場にもなっている。保護者同士の交流の場も今後も企画していく。	
	40	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	100%	0%	相談の申し入れがあった場合には、速やかに対応できるようにしている。	
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	100%	0%	定期的に通信を発行し、情報を発信している。	
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	100%	0%	取り扱いには十分に留意している。	
	43	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	100%	0%	子どもの特性に合わせて情報を伝えたり、家庭の状況に合わせてながら情報伝達するよう配慮している。	
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	60%	40%	行事に地域の方や他の団体の方にお越しいただき、子どもたちにレクチャーしていただくなどを通して交流を行っている。	
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	100%	0%	各種防災マニュアルを策定し、訓練を行っている。	
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	100%	0%	非常災害の発生に備えて、必要な訓練を行っている。	
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	100%	0%	子どもの状況を確認している。	
	48	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	100%	0%	当センターでは給食の提供は行っていない。保護者からの聞き取りにより把握している。	
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	100%	0%	安全管理に配慮した上で支援を行っている。	
	50	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	80%	20%	安全計画の取り組み内容について、家族に十分な周知は行えていない。	今後は家族への周知の方法も検討していく。
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	100%	0%	迅速に事業所内で共有し、再発防止に向けた方策を検討するようにしている。	
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	100%	0%	虐待防止の研修会に参加し、職員内で共有するようにしている。	
53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	100%	0%	・身体拘束を必要とする事例がないが、必要な場合は個別支援計画に記載するようにしている。		

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	倉吉東こどもの発達サービスセンター		
○保護者評価実施期間	令和6年10月15日		～ R6年12月30日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	72	(回答者数) 62
○従業者評価実施期間	令和7年2月3日		～ 令和7年2月28日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5	(回答者数) 5
○訪問先施設評価実施期間	令和7年2月3日		～ 令和7年2月28日
○訪問先施設評価有効回答数	(対象者数)	2	(回答者数) 2
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年3月14日		

○分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援を提供するよう心がけている。	個別療育を行う事業所ではあるが、こどもが普段生活している園や学校での様子も観察し、集団の中での姿もとらえながら、個に応じた支援を提供するようにしている。 保護者のニーズに応じて、医療機関や訓練場面等にも同行し、こどもの特性に応じた支援のための情報共有を行っている。	今後も引き続き、職員が連携しながら、チームでこどもの特性に応じた支援について考えていけるようにする。
2	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達の状況について共通理解ができるよう心がけている。	毎回の個別療育後には、担当職員よりこどもの状況を保護者と直接伝え合う時間を持つようにしている。その際に、保護者より新たなニーズや困り感がある場合には聞き取り、その後の支援内容に取り入れるなど、柔軟に対応していけるよう配慮している。	今後も引き続き、職員より支援時の気づきを丁寧に伝えていながら、保護者のこども理解につなげていきたい。
3	こどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮を行っている。	ノートアプリを活用し、保護者との個別のやりとりができるようにしている。個別療育時のこどもの様子を担当者からアプリを通して伝えるようにしたり、保護者からは次の来所までに、事前に家庭での様子や保護者の思いを伝えたりするツールとして役立っている。	行事参加時などに、活動時の写真をアプリで保護者と共有することで、家庭からも保護者とこどもの活動の振り返りが豊かになるよう、今後も継続していく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	地域のこどもとの交流の機会やきょうだい向けの支援や保護者同士の交流の機会が少ない。	個別療育のため、地域のこどもとの交流の機会は持っていない。行事開催時に、併設こども園の園児も参加できるようにしているが、十分な交流の機会とはなっていない。	きょうだい向けの支援としては、きょうだいの療育に同行してきた際に過ごす場所や遊びを提供したり、行事開催時にきょうだいの参加も可としている。 令和6年度に、保護者交流会を数年ぶりに開催した。当事業所の卒業生の保護者との交流も行った。今後も開催を継続していく。
2	家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族も参加できる研修会や情報の提供の機会が少ない。	当事業所では、個別療育が主な支援の方法であり、支援場面の観察機会を通して、保護者支援を行っている。保護者の支援ニーズは、個々により異なるため、家族支援プログラム（ペアレントトレーニング等）は現在行っていない。	今後は、家族も参加できる研修会や情報の提供を積極的に行っていく。さらに、家族支援プログラムへのニーズがある場合には、実施も検討していく。
3	非常災害の発生に備えて、どのような対応をしているか、避難訓練をいつ実施しているのかが分かりにくい。	個別療育のため、避難訓練が行われているが分かりにくい状況がある。非常災害時の避難経路等については、掲示しているものの、利用者に分かりにくくなっている。	避難訓練を実施した際には、お便り等で周知していく。非常災害時の計画や避難経路の掲示については、設置場所を変更するなどしながら、広く周知できるよう工夫する。